



2万5千人といわれる大軍を率いて尾張に侵攻した駿河の戦国大名・今川親子。対する尾張の大名・織田信長が少数の軍勢で敵陣に攻め込み、今川義元を討ち取って今川軍を退却させた。日本の歴史上有名な「桶狭間の戦い」である。

劣勢の信長が大雨予想の情報をいち早く戦略に取り入れ、籠城の予定を変更して出撃、桶狭間の松林の中で雨をしのいでいた今川勢本陣に突っ込んだのが、奇跡の大逆転につながった。一説にはこう伝えられている。

時は永禄3（1560）年の旧暦5月19日（新暦6月12日）というから、確かに梅雨の真っただ中であった。

戦国時代も現代も、戦も生産・ビジネスも天気を味方にするに百人力となる。

日本には四季があるというが、春と夏の間には梅雨を入れて五季という気象学者もいる。

青森県の梅雨は関東以西ほどはつきりせず、空梅雨の年も珍しくない。

しかし、オホーツク海に高気圧が停滞してヤマセ（北東

豪雨も水不足も想定を

気流や湿った東風ともいう）が続くと、市民生活や農作物に大きな影響を及ぼすことがある。

昭和の時代の梅雨は、シトシト雨の「陰性型・女性型」、ザアザア降りの「陽性型・男

性型」と、梅雨の型を分けていた。しかし昨今は集中豪雨や土砂災害が増え、災害に直結しやすくなっている。第三の「ゲリラ豪雨型」といえるかもしれない。



梅雨のころにきれいに咲くアジサイ—弘前市石川の大仏公園

今月のお題 梅雨もいろいろ

東北北部(青森)の梅雨入り・明け

	梅雨入り	梅雨明け	降水量 平年比(%)
2006年	6月15日	8月2日	80
07年	6月29日	8月11日	73
08年	6月23日	8月5日	98
09年	6月4日	特定せず	148
10年	6月16日	7月18日	113
11年	6月21日	7月9日	70
12年	6月9日	7月26日	86
13年	6月15日	8月10日	110
14年	6月6日	7月25日	109
15年	6月26日	7月29日	87
平年	6月14日	7月28日	

開花・満開と同様に気象台が発表する。しかし桜は確定日だが、梅雨は速報である。梅雨の確定は、毎年8月末に精査してから。従って、6月ごろ「梅雨入り」と報道されているが、気象台の実際の発表は「梅雨入りしたとみられる」との表現にとどめている。

梅雨に入ると雨の日が多くなり、降りすぎると洪水や土砂災害を起すが、降らなすぎると渇水になる。

青森地方気象台の観測では今冬、青森市の降雪量累計は55.6㎝。平年に比べて11.5㎝も少なく、昨年より20㎝少なかった。山やダムに蓄えられている水が不足していないか心配になる。

天気は時として意地悪をする。梅雨は通常、1カ月以上続くので、豪雨に備えるのはもちろんだが、農家の皆さんは水不足も考えて今のうちから水管理に注意していただきたい。

限りがあり大切な水資源。水不足になるからと急に節水するのはなく、毎日の歯磨きの時に洗面台の水を流しっぱなしにせずコップに水をためて使うなど、普段の生活の中でも節水を心掛けたいものである。

（工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住）

※第3週に掲載します。